

<今回>277回目 2020年7月6日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p161 邪馬壹国の名はいつ成立 より

<前回>276回目(20-6-26) 出席者 8名

資料(20-06-26-1)前回(20-2-14)のまとめ(清水)

-2) 日程表(清水)

A 報告 2月後半から8回新型コロナウイルスの影響で中断した。新参加の石橋慶二氏が欠席されたので自己紹介は次回に出来ればと思う。県民センター602会議室の会場も20人部屋だから厳密には言わないが11人くらいまでは良いのではないかとされた。8人の出席を得て、皆さんの顔を拝見して安心した。

B資料-2)は7月からの日程表である。使用団体が少なくなっているようなので、14時からに早められるかトライしてみる。冬場になった時には1時間ほど早くして十分話し合い時間を持ちたい。疑問点が多い。

津多屋の若い衆の呼び込みはあったが、次回から

C 読書 朝日文庫本のp154 中国風名称への変化

- 1) 例として宋書索虜伝を取り上げた。①索頭虜(姓託跋氏) = 索頭单于猗駝(いだ) 懐帝永寿2年駝の弟盧 上の孫什翼鞬勇壯(戦死)子の開(字涉珪) ②開の次子齊王の嗣(字木末) 死んで明元皇帝という。その子の薨(字仏狸)が次の皇帝になる(440年)。原音(表音)で全体を表記し、次に最後の1字だけ略記するのがルールと読める。古田以前の学者は宋書索虜伝を読んでいなくて、倭の5王の比定に走った。
- 2) 和風と中国風の間。 中国風名称と倭国風名称(日本書紀)には何らかの関係があるのではないかと探ってきた。百濟武寧王の場合。中国風は余隆、石碑内には斯麻王、隆と斯麻の間には何の関係もない。
- 3) 壹与の鎖 倭の5王と日本書紀の天皇群との関係を否定してきた。壹与(イヨ)または臺与(トヨ)の読みに対して「臺」はトとは読んだ事例がないからトヨとは読めない。途中から、猗駝、什翼鞬一開、嗣 卑弥呼一壹与
- 4) 匈奴の单于名 ①呼韓邪の左伊秩言の兄呼衍王の娘2人を娶る。長女は2子を生む。次女大閼氏は4子を生む。上の2人は長女の子供より年長、3人目「咸」、4人目「楽」は長女の子たちより年少で漢字一字名称である。2代目の息子が王昭君を妻とした。その間の子は中国風一字名称「云」 ②3代目は5男の咸がつぎ、弟は楽だったが興となって、後に孝の文字がよさそうだから「孝」にした。呼韓邪が臣下の礼をとって、その子供の段階から1字名称が発生した。③南匈奴は呼韓邪の孫の代から「比」という1字名称が発生した。
- 5) 倭と壹の文字 倭(ゐ)に代えて壹の文字を使用した。壹与は倭与となる。壹は臣下の美德(宋書では倭讚、倭隋、倭斉の例は倭を姓に使っている)匈奴は1世紀、倭国は3世紀 漢字文化が入ってきている。使〇〇、大夫、(卿、大夫、士の貴族3階級)

次回日程 20-7-27(月) 15時から18時 603号室

-8-14(金) 15時から18時 602号室

-8-24(月) 15時から18時 602号室

-9-11(金) 15時から18時 601号室

-9-25(金) 15時から18時 601号室